

第2期神川町教育振興基本計画（案）

（平成30年度～平成34年度）

未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成



平成 年 月

神川町・神川町教育委員会

目 次

第1章 総 論

1 はじめに	1
(1) 計画策定の要旨	
(2) 計画期間	
2 教育を取り巻く社会の動向	1
(1) 人口の減少と少子高齢社会	
(2) グローバル化の進展と課題	
(3) 環境問題とエネルギー問題の深刻化	
(4) 防災意識の高まり	
(5) 地域社会や生活環境の変化	
3 神川町における教育の現状と課題	3
(1) 幼児教育について	
(2) 小・中学校教育について	
4 神川町がめざす教育	5
(1) 教育目標	
(2) 基本目標	

第2章 各 論

施策体系	7
「基本目標Ⅰ 特色ある学校教育の推進」の施策	13
「基本目標Ⅱ 自立と確かな学力の育成」の施策	18
「基本目標Ⅲ 健やかな体と豊かな心の育成」の施策	24
「基本目標Ⅳ 信頼される教育環境の整備」の施策	31
「基本目標Ⅴ 家庭・地域の絆を深める教育」の施策	36
「基本目標Ⅵ 生涯学習とスポーツの振興」の施策	40

資 料

用語の説明	43
神川っ子宣言	45

神 川 町 教 育 振 興 基 本 計 画

第 1 章 総論

1 はじめに

(1) 計画策定の趣旨

平成 18 年 12 月に全面改正された教育基本法の前文では、「個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する」ことがうたわれています。また、第 1 条において、教育の目的として、「人格の完成」と、「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」が規定されています。この理念を・目的を実現すべく、国ではこれまで、第 1 期及び第 2 期教育振興基本計画を策定し、様々な取り組みを行ってきました。

本町でも改正教育基本法の趣旨に鑑み、平成 27 年度に「未来を切り開く豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成」を教育目標とした神川町教育振興基本計画を策定し、教育に関する様々な施策を推進してきました。

こうした中、上位計画として位置付けている神川町総合計画の見直しに伴い、第 1 期計画の基本目標は継承した上で、第 2 期神川町教育振興基本計画を策定するものです。

教育基本法（教育振興基本計画）

第 17 条 政府は、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について、基本的な計画を定め、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

2 地方公共団体は、前項の計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。

(2) 計画期間

平成 30 年度から平成 34 年度までの 5 年間とします。

2 教育を取り巻く社会の動向

(1) 人口の減少と少子高齢社会

我が国の人口は、平成 20（2008）年をピークとして減少局面にあり、低出生率と長寿命化により、世界的に最も少子高齢化が進んでいます。国立社会保障・人口問題研究所の予測によると、2030 年には 65 歳以上が我が国の総人口の 3 割を超えるとされています。

1人の女性が生涯に産む子どもの数（合計特殊出生率）平成28（2016）年に生まれた子供の数（出生数）は97万6979人で、1899年に統計を取り始めてから初めて100万人を割り込みました。また、平成28（2016）年の合計特殊出生率は1.44で、人口の維持に必要とされる2.08を大きく下回る水準となっています。

こうした人口減少・少子高齢社会を迎えたことで、すべての人々がこれからの社会を担い生き抜いていく力を育むとともに、生涯にわたり、様々な分野でそれぞれの役割や能力を発揮することが求められています。

（２）グローバル化の進展と課題

I C Tの発達と普及により、社会・経済活動における時間的・空間的な制約が縮小し、生活の利便性の向上や経済のグローバル化が急速に進んでいます。これにより、社会のあらゆる分野でのつながりが国境を越えて活性化しており、日本の在留外国人数や海外の在留邦人数は増加しています。また、日本では2019年にラグビーワールドカップ、2020年には東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、訪日外国人の増加と、交流機会の増加が予想されます。

このような状況において、グローバルな変化とそれに伴う課題について敏感で、異文化に対する理解と語学力・コミュニケーション能力を持った人材を育成することがこれまでより一層必要になってきます。

（３）環境問題とエネルギー問題の深刻化

地球温暖化や食糧問題など、地球規模での環境問題が深刻化しています。社会的な取り組みとして、節電対策や省エネルギー化、自然エネルギーの活用等社会経済システムの変革に加えて、ゴミの減量化や3 R運動など個人レベルでの生活改善が必要です。

今後、環境と経済、人間社会のバランスのとれた持続可能な社会の構築のために、一人一人が環境への負荷の少ないライフスタイルを身に付けるなど、正しい判断力をもって行動することが求められています。

（４）防災意識の高まり

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の地震や津波による被害、原子力発電所の事故に起因する放射能災害、平成28年4月に発生した熊本地震などを経て、防災に対する重要性の再認識や食の安全への関心が高まっています。

災害の発生に備えて、日ごろから防災意識を高めるとともに、災害の状況に応じた的確な判断のもとに、自らの安全を確保するための行動ができるようにすることが必要です。

（５）地域社会や生活環境の変化

核家族化やライフスタイルの多様化により、地域社会との結びつきが弱まるなど、人間関係が希薄化し、町民を取り巻く生活環境は大きく変化しています。こうした中、子供の頃からコミュニケーション能力や社会性を身に付け、積極的に社会参加ができる資質を養うとともに、社会人としての自立できる勤労観や職業観を育む必要があります。

また、社会全体で教育に取り組むために、社会における人と人とのつながりを重視し、地域コミュニティを再構築していくことが求められています。

３ 神川町における教育の現状と課題

（１）幼児教育について

幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎を確立する最も大切な時期に当たります。このため、幼稚園では、幼児の主体的な活動を促進し、幼児一人一人の特性に応じた、幼児期にふさわしい生活が送れるよう配慮する必要があります。

町内には、１つの公立幼稚園と２つの公立保育所、１つの私立保育園があり、就学前の幼児がスムーズに小学校生活に入れるよう保育所・幼稚園及び小学校との連携を図っています。また、幼稚園では、保護者や地域のニーズに応じ、預かり保育を行っています。

神川町では、子育てがしやすい環境をさらに充実させるために、公立の保育所と幼稚園を統合し、新たに「認定こども園」の設置を計画しています。

（２）小・中学校教育について

① 学力について

今日の急激な社会の変化に主体的に対応できるよう、創造力豊かで将来の目標を持った子供たちの育成が求められています。

子供たちの生涯にわたる人間形成の基礎を培うために、基礎学力の定着とともに、自らの目標を明確にし、自ら学ぶ意欲と主体的に学習する態度を育成することが重要です。

小学６年生と中学３年生を対象にした「全国学力・学習状況調査」（平成29年度）の結果から、神川町の児童生徒の学力は、次のような傾向が見られます。

ア 国語について

「漢字の読み書き」は正答率が高く、宿題や家庭学習で繰り返し練習している成果が出ています。また、小学校では無解答率が低く、問題文をよく読んで根気強く取り組んでいます。中学校でも無解答が少なくなってきました。

しかし、「書くこと」の領域では小中学校ともに平均正答率が全国平均値を下回っており、重点をおいて指導にあたる必要があります。

イ 算数・数学について

小中学校ともに無解答率が低くなる傾向で、問題に根気強く取り組んでいます。

また、計算などの基礎的な問題は、宿題や家庭学習、補習、コバトン問題集等の活用により小中学校ともに成果が出ています。

しかし、活用問題や記述式の問題では小中学校ともに平均正答率が全国平均値を下回っており、重点をおいて指導にあたる必要があります。

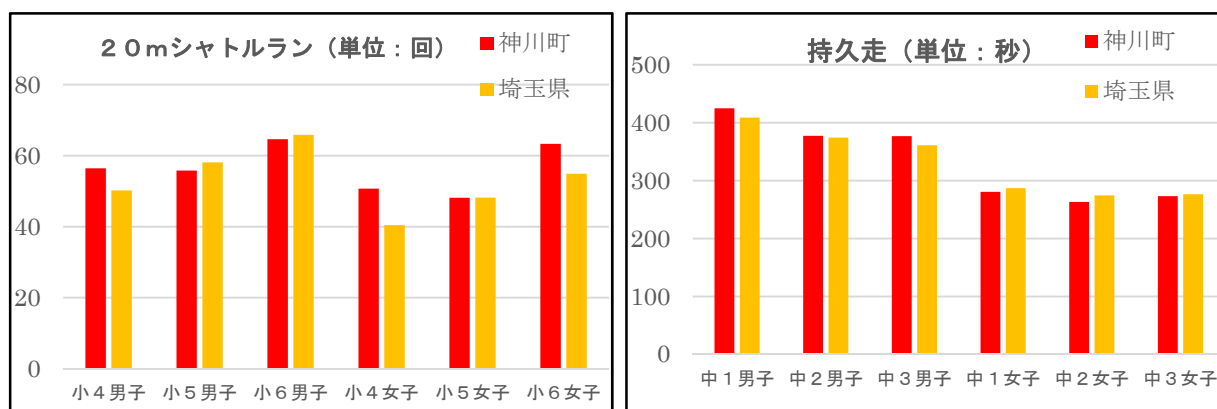
②心と体について

子供たちに、生命を尊重する心や他者を思いやる心、倫理観や正義感などを越えても変わらない、豊かな人間性を育成する、いわゆる「心の教育」の推進が求められています。

このため、教師と児童生徒及び児童生徒相互の人間関係を深めるとともに、将来の夢や自分の生き方についての考え方を深め、様々な体験活動を推進するなど道徳教育の一層の充実が必要です。

子供たちの心の健康、アレルギー疾患への対応、生活習慣病や食生活の乱れなど、多様化する健康課題への対応が求められています。さらに、生活習慣の変化に伴い、子供たちに体力低下傾向が見られ、その改善が課題になっています。

平成29年度新体力テストにおける神川町の児童生徒の体力は、県と比較して高い結果となりました。しかしながら、小学生の20mシャトルランや中学生の持久走（男子1500m、女子1000m）などの種目で課題が見られます。



このことから、児童生徒の体力の向上をめざして、体育授業や体育的行事、運動部活動の充実や家庭での運動習慣の確立など、体力向上の取り組みを推進することが求められています。

③教育環境について

「生きる力」を育む学校教育を実現するためには、信頼される教育環境の実現を図る必要があります。

平成29年度全国学力・学習状況調査の質問紙結果から、「読書が好きだ」に該当する児童生徒の割合も全国平均を上回っており、読書環境の整備が成果を上げています。今後も読書環境の継続的な充実が求められています。

授業において、「自分の考えを発表する機会を与えられている。」「授業中友達と話し合う活動をよく行った。」と答えた児童生徒の割合も全国平均値を上回ってお

ります。今後も、教職員研修の充実と授業改善に努め、児童生徒の学習意欲が学力つながるよう教育環境を充実させる必要があります。

4 神川町がめざす教育

(1) 教育目標

少子高齢化、高度情報化、国際社会におけるグローバル化など、私たちを取り巻く社会は激しい変化の中にあります。私たちは、人や自然、社会と関わり、繋がりをもちながら生活しており、その中で、教育は自らの生き方について考え、実践していく力を養うために重要な役割を果たしています。この激動の時代の中で自立して生き抜くために、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得し、自ら考え、判断し、表現することにより問題を解決する力が必要です。また、自らを律しつつ他者と協調し、思いやる心や感動する心などの人間性と、たくましく生きるための健康や体力を兼ね備えた力も必要です。これら「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の知・徳・体を基盤とした「生きる力」を子供たちにしっかりと身に付けさせることが重要です。

子供たちに「生きる力」を身に付けさせ、町民一人一人の学びを通じた絆づくりと活力あるコミュニティを形成するために、神川町は「生涯学習推進のまち」を宣言し、ふれあいを大切にし、生涯にわたりともに学びつづけ、生きがいのある人生と心のかよいあう「かみかわ」の実現をめざしています。

人間尊重の精神を基調として、町民の生涯学習機会の充実を図るとともに、個性を尊重した幼児・児童・生徒の教育を重視し、「生きる力」を育て「絆」を深めるための取組を進めるために、次の目標を掲げます。

神川町教育委員会の教育目標

「未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成」

(2) 基本目標

本計画において、今後5年間（平成30年度～平成34年度）に取り組む教育行政の6つの基本目標を示します。

I 特色ある学校教育の推進

恵まれた自然環境や古くから培われてきた郷土の伝統・文化を継承するとともに、グローバル化や時代の変化に対応した教育を推進します。

また、小規模校のよさを活かした学校教育の推進、異校種間の連携を積極的に行います。

Ⅱ 自立と確かな学力の育成

基礎・基本の徹底を図り、思考力・判断力・表現力などを含めた確かな学力を子供たちに身に付けさせます。

また、幼児教育、キャリア教育、特別支援教育を推進し、子供たちが社会的に自立して生きていくための基礎となる力を育みます。

Ⅲ 健やかな体と豊かな心の育成

健康の保持・増進や体力の向上などにより、健やかな体を育成します。

また、子供たちの豊かな心を育むため、体験活動を充実させるとともに、道徳教育、人権教育を一層推進します。

いじめや不登校、非行・問題行動の防止などの課題に取り組みます。

Ⅳ 信頼される教育環境の整備

教職員の資質の向上や学校の組織運営の改善、学習環境の整備・充実などにより、子供たちや保護者から信頼される学校教育を推進します。

また、子供たちを災害・犯罪から守るための安全対策を講じます。

Ⅴ 家庭・地域の絆を深める教育

「親の学習」の実施など、家庭教育の支援体制を充実させるとともに、「学校運営協議会」を推進するなど、地域の方々による学校への協力体制の充実を図り、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進する中で、家庭・地域の教育力を向上させます。

Ⅵ 生涯学習とスポーツの振興

ふれあいを大切にし、生涯にわたりともに学びつづけ、生きがいのある人生と心のかよいあう「かみかわ」の実現をめざし、心身ともに健康で活力に満ちた生活を営むため、町民が生涯にわたってスポーツ・レクリエーションに親しむことができる環境をつくります。

また、郷土の偉人や郷土の文化を学び、それを次世代に伝えていくとともに、町民が心豊かな生活を送れるよう、町民の文化・芸術活動の活性化を図ります。

【夢と希望を語る集い（町内小学４年生）】

第2章 各論

施策体系

6つの基本目標をもとに、次の施策と主な取組を設定します。

基本目標Ⅰ 特色ある学校教育の推進

①土曜日半日授業の有効活用

- ・各校の特色を生かした日課
- ・学校公開を活用した、学校・家庭・地域の連携強化
- ・授業時数の確保
- ・校内研修の充実
- ・児童・生徒の学びの機会の拡大

②訪問指導の推進

- ・神川町教育委員会学校訪問
- ・人事学事担当学校訪問（小・中）
- ・生徒指導に係る学校訪問（中）
- ・教育支援担当・学力向上推進担当学校訪問（幼・小・中）
- ・特別支援教育担当学校訪問（小・中）
- ・校内授業研究会指導主事訪問（幼・小・中）
- ・町内全教諭1回以上、計画に基づいた公開授業・研究授業

③研究委嘱

- ・「心の教育」の推進研究
- ・学力向上研究
- ・体力向上研究
- ・人権教育研究

④各種推進委員会等の開催

- ・校長会・教頭会
- ・学力向上推進委員会
- ・体力向上推進委員会
- ・人権教育推進委員会
- ・神川町社会体験チャレンジ事業推進委員会
- ・神川町青少年育成委員会
- ・神川町立中学校部活動推進委員会
- ・保護司会・民生委員と学校管理職との情報交換会
- ・更生保護女性会と中学校教職員等との情報交換会

基本目標Ⅱ 自立と確かな学力の育成

①生きる力の基礎を育む幼児教育の推進

- ・ 質の高い幼児教育の推進
- ・ 幼稚園教員や保育士の資質向上
- ・ 幼児教育と小・中学校教育との連携の推進
- ・ 幼保一体化への対応
- ・ 子育ての目安「3つのめばえ」の推進

②確かな学力の育成

- ・ 分かる授業の推進
- ・ 教科における指導内容・指導方法の工夫と改善
- ・ 神川町学力テストの実施
- ・ 学習状況の調査結果などの分析と活用の推進
- ・ 学力向上推進委員会の充実
- ・ 少人数指導等のきめ細かな指導の充実

③神川の伝統文化を尊重しグローバル化に対応する教育の推進

- ・ 伝統と文化を尊重する教育の推進と支援
- ・ 国際性を育む教育の推進
- ・ 幼稚園・小学校段階からの国際性を育む教育の推進
- ・ 帰国・外国人児童生徒などへの教育の充実
- ・ 歳時記を活用した教育の推進

④時代の変化に対応する教育の推進

- ・ 情報活用能力の育成
- ・ 科学技術教育の推進
- ・ 環境教育の推進
- ・ 社会的課題に対応する教育の推進

⑤キャリア教育の推進

- ・ 発達段階に応じたキャリア教育の推進
- ・ 職場体験学習の充実
- ・ 講師を招聘した出前授業の実施
- ・ 神川町長の出前授業の実施
- ・ 中学生議会の実施
- ・ 2分の1成人式の実施

⑥特別支援教育の推進

- ・ 特別支援教育体制の整備・充実
- ・ 就学支援・相談の充実
- ・ 特別支援教育の視点に立った指導の充実
- ・ 学習支援員の活用
- ・ 他機関との連携
- ・ 支援籍学習の推進

基本目標Ⅲ 健やかな体と豊かな心の育成

①健康の保持・増進

- ・学校保健の充実
- ・食育の推進
- ・性に関する指導や薬物乱用防止教育の推進
- ・顎関節検診及びフッ化物洗口の実施

②体力の向上と学校体育活動の推進

- ・学校体育の充実
- ・「教育に関する３つの達成目標」（体力）の推進
- ・運動部活動の充実
- ・町内タグラグビー教室の実施（小学６年生）
- ・体力向上推進委員会だよりの発行

③豊かな心を育む教育の推進

- ・道徳教育の推進
- ・体験活動の推進
- ・読書活動の推進
- ・「教育に関する３つの達成目標」（規律ある態度）の取組

④いじめ・不登校の防止

- ・いじめ対策の推進
- ・教育相談活動の推進
- ・不登校対策の推進
- ・幼・小・中・高への「なめらかな接続」の推進

⑤生徒指導の充実

- ・生徒指導体制の充実
- ・非行・問題行動の防止

⑥人権を尊重した教育の推進

- ・人権教育推進体制の充実
- ・人権教育の指導内容・指導方法の工夫改善
- ・児童虐待から子供を守る学校づくりの推進
- ・男女共同参画の視点に立った教育の充実

【神川中学校 社会体験チャレンジ】

基本目標Ⅳ 信頼される教育環境の整備

①教職員の資質・能力の向上

- ・優れた教職員の確保
- ・小規模に対応した町費職員の配置
- ・「オール神川」体制に基づく教職員研修の充実
- ・指導力が不足している教員への対応
- ・人事評価制度の活用
- ・子供と向き合う環境づくり
- ・教職員の心身の健康の保持・増進

②子供たちの安心・安全の確保

- ・安全教育の推進
- ・学校の危機管理体制の整備・充実
- ・防災体制の整備・充実
- ・家庭や地域と連携した防犯・交通安全教育の推進
- ・関係諸機関との連携

③学習環境の整備・充実

- ・学校施設の整備推進
- ・学校図書館の整備・充実
- ・学校教材・備品の整備・充実
- ・I C T環境の整備

【渡瀬小学校 水辺公園 清掃活動】

基本目標Ⅴ 家庭・地域の絆を深める教育

①家庭教育支援体制の充実

- ・家庭教育学級の充実
- ・「親子ふれあいの日」の実施
- ・子育ての目安「3つのめばえ」の活用の推進
- ・子育ての支援
- ・二つの約束「あいさつとくつそろえ」の推進
- ・「なっちゃんと神じいとの約束」の推進
- ・「神じいの小言十訓（保護者向け）」の推進

②地域の教育力の向上

- ・「学校応援団」の活動の充実
- ・地域の団体・企業との連携

③学校・家庭・地域が一体となった教育の推進

- ・土曜日半日授業による学校公開の推進
- ・「彩の国教育の日」の推進
- ・PTA、子供会活動への支援
- ・青少年健全育成活動の促進
- ・町内各団体との連携
- ・青少年を有害環境から守るための取組の推進
- ・学校運営協議会の推進
- ・「ふれあいの日・ノーメディアデー」の実施

子育ての目安「3つのめばえ」

小学校入学までに子供たちに身につけてほしいこと

生 活

- ◇ 健康で安全な生活をする
- ◇ 自分のことは自分でする
- ◇ 物を大切に使う

他者との関係

- ◇ 人とのかかわる力を身につける
- ◇ 言葉で伝え合う
- ◇ きまりや約束を守る

興味・関心

- ◇ 好奇心や探究心をもっていろいろなものにかかわる
- ◇ 文字や数量などの感覚を豊かにする
- ◇ 自分の思いを表現する

基本目標Ⅵ 生涯学習とスポーツの振興

①学び合いとともに支える社会をめざす生涯学習の推進

- ・ 学びを支える体制づくり
- ・ 学び合いを支える人づくり
- ・ 学びの成果の活用を支える仕組みづくり
- ・ 公民館図書室における読書活動の支援

②文化芸術の振興と伝統文化の継承

- ・ 文化芸術活動の充実
- ・ 子供の文化芸術活動の充実
- ・ 文化財の保護と活用

③生涯にわたるスポーツの推進

- ・ スポーツ・レクリエーション活動の推進
- ・ スポーツ・レクリエーション団体の活動支援
- ・ 神川町体育協会主催事業の支援
- ・ 豊かなスポーツライフを支える環境づくり

【丹荘小学校 運動会】

施策 土曜日半日授業の実施

現状と課題

学習指導要領の改訂により、週時間数が増加し学校における教育課程の過密化が懸念されています。また、土曜日の過ごし方の調査で、児童生徒の基本的な生活習慣の乱れなどが問題になっています。一方、保護者や地域からは、学校行事の土曜日実施などを求める声が聴かれます。そこで、年5回の土曜日授業を実施し、授業時数を確保するとともに、教育課程の過密化の解消や児童生徒の自治的活動の活発化を図り、開かれた学校づくりを推進しています。

施策の方向性

- ・家庭や地域との連携を強化し、開かれた学校づくりを推進します。
- ・学校外の団体や講師を招聘し、グローバル化に対応した教育やキャリア教育、人権教育を推進します。
- ・教職員の研修時間を確保し、負担軽減を図るとともに研修を充実させます。

主な取組

○各校の特色を生かした日課

- ◆地域の実態に応じ、また、家庭・地域の連携を図りやすくするために、日課を工夫し、柔軟な対応を図ります。
- ◆町内の幼稚園・小学校・中学校と連携し、保護者の負担を軽減します。

○学校公開を活用した、学校・家庭・地域の連携強化

- ◆日常の授業を公開し、学校教育への理解を深めるよう努めます。
- ◆学校行事を積極的に公開し、保護者や地域の方々が来校しやすい環境を整えます。
- ◆保護者や地域の方々の前で、児童生徒が発表する機会を積極的に設定し、「神川っ子」の発表力を向上させます。

○授業時数の確保・充実

- ◆台風や大雪、感染症などによる休校等で授業時数を確保できない場合は、土曜日授業で実施した時間を割り当て、授業時数を確保します。
- ◆土曜日半日授業と合わせて夏季休業日を短縮し、授業時数を確保します。

○校内研修の充実

- ◆教職員の研修計画を立案させ、指導方法の工夫・改善を図ります。
- ◆授業研修会後の研究協議会の時間を有効に使い、指導者を招聘し、充実した校内研修の充実を図ります。

○児童・生徒の学びの機会の拡大

- ◆学校外の団体や講師を招聘し、講演会や体験学習等を推進することで、グローバル化に対応した教育やキャリア教育、人権教育を推進します。
- ◆長期休業中のサマースクール等中学生の補習や、学習について質問を受ける時間を設け、個に応じた学びを推進します。

施策 訪問指導の推進

現状と課題

学力向上を推進するために、町では平成25年度から、指導主事2人体制になりました。学校訪問の機会を増やすことで、学校と教育委員会との連携を強め、課題を早期発見するとともに、授業力向上に向けた指導の機会を増やすことで、活力ある学校づくりを推進しています。

施策の方向性

- ・施設設備や安全面、職員の服務についての指導を徹底します。
- ・授業力向上に向けた指導と教育力向上のための環境の充実を図ります。
- ・生徒指導や特別支援教育についての指導や相談を充実させます。

主な取組

○神川町教育委員会学校訪問（幼・小・中）

- ◆年度当初に、教育長と指導主事が学校を訪問し、新学期の学級の様子や施設・設備の管理、諸表簿の整理状況を確認し、指導を行います。
- ◆夏季の水泳指導に係る安全点検を実施し、適切な指導を行います。

○人事・学事担当学校訪問（小・中）

- ◆北部教育事務所の人事・学事担当に要請し、教育委員会と合同で年1回学校管理について、指導を行います。

○生徒指導に係る学校訪問（主に中）

- ◆北部教育事務所の生徒指導担当に要請し、教育委員会と合同で年1回指導を行います。
- ◆学校長の依頼を受けて学校を訪問し、見届けや確認、相談を行います。

○教育支援担当・学力向上推進担当学校訪問（幼・小・中）

- ◆北部教育事務所の教育支援担当・学力向上推進担当に要請し、教育委員会と合同で年1回、諸表簿や授業に関する指導を行います。

○特別支援教育担当学校訪問（小・中）

- ◆北部教育事務所・特別支援担当に要請し、教育委員会と合同で3年に1回、特別支援教育に関する諸表簿や授業に関する指導を行います。

○校内授業研究会指導主事訪問（幼・小・中）

- ◆3歳児・4歳児・5歳児を3日間に分けて授業参観と研究協議会を実施し、町教委指導主事が指導・相談を行います。
- ◆小・中学校における校内授業研修会において、町教委指導主事が指導・相談を行います。
- ◆校長の要請に応じて、県や他市町の指導主事等に指導者を依頼します。

○町内全教諭1回以上、計画に基づいた公開授業・研究授業（小・中）

- ◆授業力向上を目的として、1人1回以上指導案を作成して研究授業を実施し、校長の要請により、町教委指導主事が指導・相談を行います。

施策 研究委嘱

現状と課題

先行き不透明な社会の中で、自らの人生を切り拓いていくためには、「生きる力」が必要です。そのためには、基礎的な知識・技能を確実に習得し、それらを活用して、考え、判断し、表現することによる問題解決力や、豊かな人間性、たくましく生きるための健康・体力を身に付けることが大切です。「知育」・「徳育」・「体力」のバランスのとれた教育を推進していくことが求められています。

施策の方向性

- ・基礎的な知識・技能を確実に習得し、それらを活用して考え、判断し、表現することによる問題解決力を育成する教育の研究を強化します。
- ・豊かな人間性を育む教育の研究の充実に取り組みます。
- ・たくましく生きるための健康・体力を育成する教育の研究に根気強く取り組みます。

主な取組

○「心の教育」の推進研究（幼・小・中）

- ◆道徳教育の充実や読書活動や体験活動の推進など、幼児・児童・生徒の実態や地域性を生かした教育を計画し、1年間の研究成果を書面にまとめて、教育委員会に提出させています。

○学力向上の推進研究（幼・小・中）

- ◆幼稚園と各学校に2年間の研究を委嘱します。1年目の終わりは、書面発表か中間授業研究報告等を実施します。2年目は2学期以降に研究発表会（授業参観と研究協議会）を実施し、町内の教職員が研修します。

○体力向上の推進研究（幼・小・中）

- ◆幼稚園と各学校に2年間の研究を委嘱します。1年目の終わりは、書面発表か中間授業研究報告等を実施します。2年目は2学期以降に研究発表会（授業参観と研究協議会）を実施し、町内の教職員が研修します。

○人権教育の推進研究（幼・小・中）

- ◆幼稚園と各学校に2年間の研究を委嘱します。1年目の終わりは、書面発表か中間授業研究報告等を実施します。2年目は、夏季休業中に行われる「北部地区（児玉・大里）人権教育実践報告会」で発表し、2学期以降に研究発表会（授業参観と研究協議会）を実施します。

施策 各種推進委員会等の推進

現状と課題

埼玉県之最重要課題である、確かな学力を育成し、グローバル化に対応する人材や社会的に自立する力を育てるには、個々の学校だけでなく、町内の幼稚園、小学校、中学校が協力し、町内全ての教職員が力を結集し、「オール神川」体制で研究を推進することが必要です。また、地域による教育活動への支援を通じて、地域の教育力を学校に取り込み、学校や家庭・地域の絆を深め、学校の教育力の向上を図っていく必要があります。

施策の方向性

- ・町内全教職員の「オール神川」体制を推進します。
- ・特別支援教育の充実を図る視点で学校への指導・助言、相談を充実します。
- ・生徒指導の観点から、地域の専門機関や専門委員との連携を図ります。

主な取組

○神川町立校長会・教頭会（幼・小・中）の開催

- ◆8月を除く、毎月はじめに校長会と教頭会をそれぞれ実施し、町内の情報交換や、合同研修、町の取り組みに対する協議を行い、「オール神川」体制を推進します。

○神川町学力向上推進委員会（幼・小・中）の開催

- ◆年3回以上、会議を開き、全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査、神川町学力テストなどの分析や、各校における課題への取り組みや成果などの情報交換、推進委員長主宰の調査の実施や町内統一で行う取り組みの確認などを行います。
- ◆学識経験者を招聘し、保・幼・小・中教職員対象教育講演会を実施します。
- ◆研究推進校の視察研修を支援します。

○神川町体力向上推進委員会（幼・小・中）の開催

- ◆年3回以上、会議を開き、新体力テストの分析や、各校における課題への取り組みや成果などの情報交換を行い、幼・小・中の系統性を重視した施策を検討し、実施します。
- ◆新体力テスト全種目総合及び種目別の学年別・町内1位の児童を表彰します。
- ◆町内の研究推進校を支援します。
- ◆町内6年生を対象にタグラグビー教室を実施し、体力向上を推進します。
- ◆新体力テストにおける町内の児童生徒の体力の現状について、体力向上推進委員会だよりに掲載し、発行します。

○神川町人権教育推進委員会（幼・小・中）の開催

- ◆年3回以上、会議を開き、町としての施策や研究方針を検討します。
- ◆北部地区人権教育実践報告会の発表を支援します。

○神川町社会体験チャレンジ事業推進委員会（中）の開催

◆神川町商工会・社会福祉協議会・神川町教育委員会が連携し、キャリア教育の観点から、中学校における職場体験研修を支援します。

○神川町青少年育成委員会（中）の開催

◆年2回以上会議を開き、生徒指導についての情報交換と卒業式の生徒指導を補助します。

○神川町立中学校部活動推進委員会（中）の開催

◆年2回以上会議を開き、部活動の支援をします。

○神川町保護司・民生委員と学校管理職の情報交換会（小・中）の開催

◆町民福祉課が主体となり、年1回以上生徒指導についての情報交換会を実施します。

○神川町更生保護女性会と中学校教職員の情報交換会（中）の開催

◆町民福祉課が主体となり、年1回以上生徒指導についての情報交換会を実施します。

【町内6年生タグラグビー教室】

施策 生きる力の基礎を育む幼児教育の推進

現状と課題

幼稚園と保育園は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児期において重要な役割を果たしており、幼児教育の重要性が指摘されています。幼児の生活に関して、基本的な生活習慣の乱れや体力の低下、小学校入学後に学校生活に適應できない「小1プロブレム」などが問題になっており、幼稚園と保育園の連携や、幼保と小学校との連携の強化が求められています。

施策の方向性

- ・幼稚園と保育園において、家庭との連携・協力した幼児教育を推進するとともに、教職員研修を充実させます。
- ・子供の発達や学びの連続性をふまえた幼児教育を充実するために、小学校とのなめらかな接続を推進します。

主な取組

○質の高い幼児教育の推進

- ◆幼稚園や保育園の教育活動を充実させ、質の高い教育を実施します。
- ◆幼児教育要領や保育所保育指針の内容の定着を図り、幼稚園や保育園において家庭と連携し、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の基礎を育む幼児教育を推進します。

○幼稚園教員や保育士の資質向上

- ◆幼稚園教員や保育士の資質向上と園児一人一人に対応した指導方法の工夫・改善を図るため、幼稚園教員や保育士を対象にした研修を実施します。
- ◆幼稚園教員や保育士の資質向上に努め、保護者との連携に努めます。
- ◆幼稚園教員や保育士の資質向上のために、人事交流を行います。

○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進

- ◆幼児・児童・生徒の交流学习を推進します。
- ◆幼稚園教員・保育士と小・中学校教職員の連携のために、情報交換会や校内研修会への自由参加、小・中学校初任者教員の幼稚園研修を推進します。

○幼保一体化への対応

- ◆幼稚園と保育園の機能を併せ持つ新しい仕組みづくりについては、国の動向を注視しつつ、適切に対応していきます。

○子育ての目安「3つのめばえ」の推進

- ◆幼稚園と保育園において、「3つのめばえ」カルタと、カレンダーを利用した教育活動を推進します。
- ◆保護者説明会等における家庭用「3つのめばえ」の利用を推進します。

施策 確かな学力の育成

現状と課題

変化の激しい社会を子供たちが、主体的で創造性豊かに生き抜いていくためには、基礎的な知識・技能を習得させるとともに、これらを活用し、課題を解決するための思考力・判断力・表現力その他の能力を育むことが必要です。

施策の方向性

- ・児童・生徒一人一人に、きめ細やかで質の高い指導を実施します。
- ・学習指導要領に即した教育を実施し、基礎的な知識・技能を習得させ、それらを活用する学習を推進し、思考力・判断力・表現力を身に付けさせます。
- ・各種調査を適切に分析し、学校の課題改善に向けた取組を支援します。

主な取組

○分かる授業の推進

- ◆町内の小・中学校教職員を対象にした町教委主催の「オール神川研修会」を実施し、授業力向上を図ります。

○教科における指導内容・指導方法の工夫・改善

- ◆学習指導要領に即した教育を推進します。
- ◆1時間の見通しを持たせ、学習内容を明確にし、学んだことを子供が振り返る授業について指導し、確かな学力を身に付けさせます。

○神川町学力テストの実施

- ◆4月に教研式N R T検査を小学2年生、3年生が実施します。
- ◆1月に教研式C R T検査を小学1年生から中学2年生までが実施し、1年間の学びの成果の確認と、担任の指導力の分析を行います。
- ◆小学2年生、4年生、中学2年生が知能検査を実施します。

○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進

- ◆各学校において、国、県、町の学習状況の調査結果と自校の結果を比較・分析し、課題把握と指導の改善に活用します。
- ◆各学校で課題解決に有効だった取り組みを共有できるよう支援します。

○学力向上推進委員会の充実

- ◆校長会から会長・副会長を選任し、課題把握と指導改善に努めます。

○少人数指導等のきめ細やかな指導の充実

- ◆学習支援員や通訳を配置し、ティームティーチング等を推進します。
- ◆学校の実態に応じて、習熟度別少人数学習を推進します。

施策 神川の文化伝統を尊重したグローバル化に対応する教育の推進

現状と課題

これからの社会を主体的に生きる人材を育成するためには、伝統と文化を尊重し我が国と郷土を愛する態度や、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う教育が大切です。そして、国際社会の一員として世界で活躍できる、グローバル化に対応する人材の育成が重要です。そのために、子供たちのコミュニケーション能力を高め、国際的な視野や多角的な価値観を受容できる力を育む必要があります。

施策の方向性

- ・ 伝統と文化を尊重し、日本人としての誇りをもち、郷土神川を愛する態度を養います。
- ・ 国際理解教育を推進し、幼稚園・小学校における外国語教育を推進します。
- ・ 帰国・外国人児童生徒等への日本語指導など、学校や社会生活の適応を図るために必要な支援を行います。

主な取組

○伝統と文化を尊重する教育の推進

- ◆ 学校応援団等の地域人材を活用して、日本や郷土神川の伝統や文化について、体験的な学びの場を設け、郷土を愛する心と誇りを養います。
- ◆ 地域の伝統行事に積極的に参加させ、郷土の伝統や文化について興味・関心を高めます。

○国際性を育む教育の推進

- ◆ A L T を配置し、国際性を高めます。
- ◆ 外国籍の保護者の母国についての文化を知る学習を推進します。
- ◆ 関係機関と連携し、外国人留学生との交流事業を支援します。

○幼稚園・小学校段階からの国際性を育む教育の推進

- ◆ 幼稚園から小学校低・中学年において、A L T を活用した保育・教育を充実させ、ふれあいをとおして幼児・児童の国際性を育みます。
- ◆ 小学校外国語・外国語活動及び中学校英語科の授業の質を高めるため、教職員研修を「オール神川体制」で開催できるよう支援し、指導力の向上を図ります。

○帰国・外国人児童生徒などへの教育の充実

- ◆ 帰国・外国人児童生徒等の日本語指導を充実させ、学校生活や社会生活への適応を図るため、日本語通訳指導職員を配置します。

○歳時記を活用した教育の推進

- ◆ 幼稚園の歳時記を活用した絵画や作品の制作、学校の掲示教育や行事の開催を積極的にし、伝統や文化について興味・感心を高めます。

施策 時代の変化に対応する教育の推進

現状と課題

グローバル化やＩＣＴの普及に伴い、様々な文化や価値観が国境を越え変化の激しい社会へ移行しています。そのような中で、ＩＣＴを適切に活用できるようにする教育や、環境や資源・エネルギーの問題に対応した環境教育、科学技術を担う人材の育成等の重要性が高まっています。将来にわたって持続可能な社会を構築するためには、子供たちに新しい課題に対応できるよう、積極的に課題を解決しようとする意欲や態度を育む教育を推進することが求められています。

施策の方向性

- ・子供たちの科学技術に関する興味・感心を高め、科学技術に関する基礎的素養や理論的・科学的思考力を育成します。
- ・児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力を育成し、情報モラルについての理解を深めます。
- ・将来にわたり、豊かな暮らしを実現する、持続可能な社会の構築を目指した環境教育を推進します。

主な取組

○情報活用能力の育成

- ◆子供たちが、ＩＣＴを活用して主体的に情報を収集・処理、発信するなど情報活用能力を育成します。
- ◆教職員がＩＣＴの研修を深め、学習内容を分かり易く掲示したり、興味関心を高めたりするために、タブレット等のＩＣＴ機器を効果的に活用します。

○科学技術教育の推進

- ◆社会科見学や出前授業など、地域や企業の人材を活用し、子供たちの知的好奇心や探究心を喚起し、科学を学ぶ楽しさが実感できるように、観察や実験を充実します。
- ◆「こども大学」など関係諸機関行事を支援し、児童参加を推進します。

○環境教育の推進

- ◆環境保全に積極的に関わる態度を養うため、各教科や総合的な学習の時間を活用した環境教育を推進します。
- ◆温暖化対策や学習環境の向上のため、校庭の一部芝生化を推進します。
- ◆中学校の校舎に太陽光パネルを設置し、自然エネルギーの活用とそれに伴う環境教育を推進します。

○社会的課題に対応する教育の推進

- ◆学校におけるボランティアや福祉に関する教育を推進するために、町内の専門機関との連携を深めます。
- ◆納税や法に関する教育や、健全な消費者教育などを推進します。

施策 キャリア教育の推進

現状と課題

産業構造の変化や雇用形態の多様化が進む中で、近年、ニートやフリーターなど学校教育と職業生活との接続に問題を抱える人が増加し、社会問題になっています。このような中で、子供たちが「生きる力」を身に付け、様々な課題に柔軟に対応し、社会人・職業人として自立していけるような教育を行うことが強く求められています。

施策の方向性

- ・ 小学校の段階から教育活動全体を通じ、組織的で系統的なキャリア教育を推進します。
- ・ 将来働くことについて意欲や関心が持てるように、家庭・地域・企業と連携して職場見学や職場体験を推進します。
- ・ 町長部局と連携し、神川町におけるキャリア教育を推進します。

主な取組

○発達段階に応じたキャリア教育の推進

- ◆ 児童生徒が目的意識をもって、主体的に自己の進路を選択できる能力を身に付けるよう、発達段階に応じたキャリア教育を推進します。
- ◆ 町内の小学４年生を対象にした、「夢と希望を語る会 ２分の１成人式」を町教委主催で開催し、将来を見据えた上で、現在の自分の目標を持たせ、主体的に学校生活に取り組む態度を養います。
- ◆ 生徒が適切で主体的な進路選択を実現できるよう、進路指導・進路相談を充実します。

○職場体験学習の充実

- ◆ 神川町社会体験チャレンジ事業推進委員会を充実させ、中学生の職場体験を実施し、社会人・職業人として自立できるよう、職業観や勤労観を育成します。
- ◆ 町内の事業所と連携・協力し小学生の職業に触れる体験を推進します。

○講師を招聘した出前授業の実施

- ◆ 様々な職種の方を幼稚園や小・中学校の講演会の講師や授業のゲストティーチャーに迎え、子供たちに本物に触れる機会を増やし、自分の将来に対する興味・関心を深め、職業観や勤労観を育成します。

○神川町長の出前授業の実施

- ◆ 小・中学校の希望学年に対して、神川町長が各学校を訪問し出前授業を行い、町の産業や経済、文化など町政についての関心を高めます。

○中学生議会の実施

- ◆ 町政に対する意見を議場で町長に直接質問し、実際の議会さながらの経験をさせることで、政治や町に興味・関心を深めるようにします。

施策 特別支援教育の推進

現状と課題

国では、障害のある子供と障害のない子供が共に学ぶことを大切にするとともに、障害のある子供が必要な指導・支援を受けられる「多様な学びの場」を用意するインクルーシブ教育の必要性を示しました。子供たちが互いに助け合い、生き生きと活躍できる環境が求められています。また、合理的な配慮や支援体制を整えていくことも求められています。

施策の方向性

- ・各学校において、個別の教育的支援が必要な児童生徒に対する支援体制を整えます。
- ・特別支援学級や通級指導教室について、児童・生徒の実態と必要性を把握しながら、新設・増設等の準備を進めます。

主な取組

○特別支援体制の整備・充実

- ◆一人一人の実態に応じた支援を行うため、特別支援教育コーディネーターの専門性向上や校内委員会の充実、通常学級に在籍する障害のある児童生徒の個別の教育指導計画作成など、体制整備に取り組みます。
- ◆「特別支援学校のセンター的機能」を活用し、特別支援学級担任や通級指導教室担当者の指導力向上に努めます。

○就学支援・相談の充実

- ◆児童生徒一人一人の障害を的確に把握し、個に応じた適正な就学支援・就学相談の充実に努めます。

○特別支援教育の視点に立った指導の充実

- ◆通常学級の授業において、教育的ニーズに応じた指導の充実やユニバーサルデザインを意識した環境整備に努めるとともに、通常学級に在籍する発達障害のある児童生徒に対し、合理的配慮を行い指導の充実に図ります。

○学習支援員の活用

- ◆児童生徒一人一人の障害の状況に応じた「支援員」を活用し、集団への支援や個への支援が円滑に進むような取組を進めます。

○他機関との連携

- ◆児童生徒に早期から適切な教育的対応ができるよう、幼稚園、保育園、小・中学校と関係機関との連携を推進します。
- ◆特別支援学校のコーディネーター、町内の保健師、理学療法士、学校カウンセラーの定期の学校訪問を複数回実施し、担任との情報交換会を推進します。

○支援籍学習の推進

- ◆障害のある子供とない子供が共に学ぶ支援籍を普及し、交流や共同学習を推進します。

施策 健康の保持・増進

現状と課題

子供たちを取り巻く生活環境の変化や生活習慣の乱れ、心の健康、薬物乱用、性に関する問題行動、肥満や痩身など健康に関する様々なことが問題になっています。学校と家庭・地域が連携して子供の生活習慣の確立に努め、子供の心身の健康づくりに取り組むことが必要です。また、「食育」を推進し、望ましい食習慣と正しい摂食嚥下を身に付けさせ、成長期にある子供たちの健やかな成長を促すことも重要です。これらのことから、自らの健康を適切に管理・改善する実践力を推進することが求められています。

施策の方向性

- ・学校と家庭・地域の医療機関等の関係機関などが連携して組織的な学校保健活動を推進します。
- ・食事についての正しい理解や望ましい食習慣の形成のため、学校・家庭・地域が連携して食育を推進します。
- ・現代的な課題に対する教育を推進するとともに、口腔衛生についての教育を推進します。

主な取組

○学校保健の充実

- ◆子供の発達段階に応じた指導計画を作成し学校保健活動を推進します。
- ◆家庭や地域と連携するために、学校保健委員会を各学校で定期に開催し、学校の実態に即した健康課題に対応します。

○食育の推進

- ◆家庭と連携し、朝食欠食の解消に取り組み、子供たちに望ましい食習慣を身に付けさせます。
- ◆給食センターと連携し地場産物を活用した給食やリクエスト給食など、地域の特色や児童生徒の関心・意欲を高める献立の充実を図ります。
- ◆中学校での食育を始め、栄養教諭を幼稚園と各小学校に派遣し、幼児・児童・生徒に対する食育と、保護者への食育を推進します。

○性に関する指導や薬物乱用防止教育の推進

- ◆家庭と連携し、子供の発達段階をふまえ、学校全体で性に関する指導を推進します。
- ◆学校薬剤師や外部指導者を活用し、児童・生徒・保護者への薬物乱用防止教室の充実に努めます。

○顎関節検診及びフッ化物洗口の実施

- ◆町内小・中学校の歯科検診において、顎関節検診を行います。
- ◆神川町内の保育園、幼稚園、小・中学校において給食後のフッ化物洗口を定期的に実施し、むし歯予防に努めます。

施策 体力の向上と学校体育活動の推進

現状と課題

近年、子供たちを取り巻く生活環境の急激な変化に伴い、外遊びやスポーツを行う時間が減少するとともに、日常的に身体を動かす機会が減っていることから、子供たちの体力が低下しています。神川町では、運動部活動や運動クラブに在籍し、意欲的に体力向上に努めている児童・生徒と、運動を苦手とし、運動習慣が欠如している児童・生徒がおり、いわゆる二極化が進んでいます。幼稚園・小学校の低学年など早い段階から運動好きな子供を育成し、運動習慣を身に付けさせることや、運動部活動における専門的な指導ができる顧問教員の確保などが求められています。

施策の方向性

- ・体力向上推進委員会を中心に、家庭や地域と連携して体力向上事業に取り組みます。
- ・「教育に関する3つの達成目標」（体力）を推進します。
- ・教員の指導力を向上させるとともに、専門的な指導力を有する地域の外部人材を積極的に活用し、運動部活動の充実に取り組みます。

主な取組

○学校体育の充実

- ◆各学校の体力向上推進委員会と神川町体力向上推進委員会を充実させ、体力向上のための研究実践を支援します。
- ◆小・中学校の教員の体育に関する指導力を高めることができるように、授業研究会を充実させます。

○「教育に関する3つの達成目標」（体力）の推進

- ◆「体力」達成目標について、児童生徒一人一人の「体力」向上目標値を設定し、体力向上のためのプログラムや教材を活用するなどきめ細かい指導を実践します。
- ◆小学校において、新体力テスト全種目総合及び種目別、町内学年別1位を表彰し、体力向上に対する意欲向上を図ります。
- ◆町内小学6年生タグラグビー教室を開催し、体力向上に対する意欲向上を図ります。
- ◆新体力テストにおける町内の児童生徒の体力の現状について、体力向上推進委員会だよりに掲載し、発行します。

○運動部活動の充実

- ◆運動部活動が充実するための環境設備を整えます。
- ◆神川町立中学校部活動推進委員会と連携し、地域で専門的スキルを有する人材を外部指導者として派遣するなど、運動部活動における技術的な指導の充実を図ります。

施策 豊かな心を育む教育の推進

現状と課題

社会の変化に伴い、規範意識の欠如や人間関係の希薄化、自己肯定感の低下が指摘されています。子供たちが心豊かで健やかに成長するためには、基本的な生活習慣の習得と規範意識の向上、自らを律し他者を思いやる心など道徳教育の推進が求められています。学校が家庭や地域と連携し、豊かな心や自己肯定感を育むことが必要です。また、知識を深め、よりよく生きるために、読書活動を充実させることが必要です。

施策の方向性

- ・地域の特色を生かした道徳教育を学校の教育活動全体を通して組織的・計画的に進めます。
- ・子供たちの豊かな人間性や社会性を育むため、地域の特色を生かした体験活動を充実させます。
- ・学校における子供たちの豊かな読書活動や読み聞かせ活動を推進します。
- ・「教育に関する3つの達成目標」（規律ある態度）を推進します。

主な取組

○道徳教育の推進

- ◆「彩の国の道徳」を活用し、特色を生かした道徳教育を推進します。
- ◆児童生徒に、「神川っ子宣言」「二つの約束（あいさつとくつそろえ）」「神じいとなっちゃんとのやくそく」を浸透させ、道徳的実践力を身に付けさせます。

○体験活動の推進

- ◆豊かな心を育むために、高齢者や幼児とのふれあい体験を推進します。
- ◆神川町社会体験チャレンジ事業推進委員会と連携し、地域の施設等の職場体験や、梨や米、野菜の栽培体験、伝統芸能の体験、養蚕の体験など、地域の特色を生かした多様な体験活動を支援します。
- ◆近隣の高等学校と連携し、動物とのふれあい体験を支援します。

○読書活動の推進

- ◆学校司書教諭を各学校に委嘱し、読書の楽しさや読書活動の充実に繋がる取り組みを推進します。
- ◆公立図書館や県立図書館等と連携し、児童・生徒が多くの図書に触れる機会をつくります。
- ◆地域の「読み聞かせボランティア」団体と連携し、よい本に触れさせ、読書の楽しさを味わう活動を支援します。

○「教育に関する3つの達成目標」（規律ある態度）の取り組み

- ◆児童・生徒に基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けさせる「規律ある態度」達成目標に取り組みます。

施策 いじめ・不登校の防止

現状と課題

いじめは人権の侵害であり、子供たちには神川っ子宣言にある「人をいたわり、命あるものを大切にします」という人権尊重の立場で、相手の気持ちを考えて行動すべきことを学ばせる必要があります。また、時代の変化とともに、インターネットや携帯電話によるいじめ・ネットトラブルが増加しています。教職員や保護者は、子供たちの置かれている状況や特徴を正しく理解し、適切に対応することが求められています。

不登校を解決するためには、児童生徒一人一人の状況に応じたきめ細かな対応や未然防止、早期対応を充実させることが必要です。特に、入学や進学時など環境が大きく変わる時期に起こる、いわゆる「中1ギャップ」の解消に向け、学校間の連携を深め、取り組みを強化することが必要です。

施策の方向性

- ・いじめ防止のため、児童生徒の人権感覚を育成するとともに、早期発見・早期対応に向け取り組みを行い、教育相談活動を推進し、教職員へ「いじめ防止等の基本方針」の理解を深めます。
- ・不登校を未然に防ぎ、早期対応を図るため、教育相談活動を推進します。
- ・中学校における不登校を防ぐため学校間の連携を強化します。

主な取組

○いじめ対策の推進

- ◆担任の学級経営能力の向上と道徳の授業力の向上を図るために、学校訪問による指導を強化します。
- ◆教職員の教育相談や生徒指導、保護者対応についてのスキルアップを図るために、各学校で組織的な対応や研修を行います。
- ◆教職員と家庭が連携し、いじめの早期発見・早期対応に努めます。
- ◆ネットいじめ問題を解消するために、ネットアドバイザーや関係機関と連携し、教職員研修や児童生徒の指導、保護者への啓発を行います。
- ◆スクールガードリーダーによる校内巡視を充実させ、いじめの早期発見に努めます。

○教育相談活動の推進

- ◆学校カウンセラーや各学校の教育相談主任、神川町保健センターの保健師や理学療法士など、専門的知識と経験を有するスタッフによる教育相談体制を充実させます。

○不登校対策の推進

- ◆中学校1年生で急増する不登校、いわゆる「中1ギャップ」を解消するために、小学校と中学校との連携を強化します。

◆スクールソーシャルワーカーを活用して、小学校間や小・中学校間、学校と家庭との橋渡しを充実させ、各学校の不登校対策を図ります。

◆神川町保健センターの保健師や他市町教育委員会と連携し、児童生徒や保護者の意向により適応教室への円滑な接続を図ります。

○幼・小・中・高への「なめらかな接続」の推進

◆入学・進学希望の学校における体験学習や中学校における部活体験を推進します。

◆小・中学校におけるキャリア教育や進路指導を充実させます。

【 神泉小学校 グランドゴルフクラブの方との運動会の練習風景 】

【オール神川 教職員研修会】

施策 生徒指導の充実

現状と課題

最近の状況は、子供たちの非行や問題行動の低年齢化や、特定の子供が非行・問題行動を繰り返す再非行が増える傾向があります。子供たちの非行や問題行動を未然に防止するとともに、問題が発生してしまったとき、早期に適切な対応を図ることが重要です。そのためには、家庭の協力や地域・関係諸機関との連携を図った生徒指導体制を各学校で整備することが大切です。また、小学校へ入学しても、学校生活になじめない「小1プロブレム」や「学級がうまく機能しない状況」などへの対応が課題となっています。

施策の方向性

- ・組織的な生徒指導体制を確立し、各学校において積極的な生徒指導を推進します。
- ・関係諸機関や学校・家庭・地域が一体となって、非行・問題行動への防止に向けた取組を実践します。

主な取組

○生徒指導体制の充実

- ◆一人一人の児童・生徒の心に寄り添った生徒指導を推進するため、組織的な校内生徒指導体制を充実させ、積極的な生徒指導を推進します。
- ◆教職員の生徒指導についてのスキルアップを図るために、各学校で組織的な対応や研修を行います。
- ◆多様な体験活動や学習環境の整備を行い、児童生徒の規範意識を育み、非行・問題行動の未然防止や早期発見・早期対応を行うための指導体制を充実させます。
- ◆「小1プロブレム」や「学級がうまく機能しない状況」などの生徒指導上の課題について県と連携して取り組みます。

○非行・問題行動の防止

- ◆非行・問題行動への対応を図るために、スクールサポーターやスクールガードリーダー、神川町青少年育成委員会など、外部人材の配置や地域との連携強化に努めます。
- ◆ネットいじめや非行防止、社会の有害環境から子供たちを守るために、ネットアドバイザーの派遣など、県と連携して体制の整備に努めます。
- ◆多くの保護者が参加して非行防止教室や薬物乱用防止教室を開催できるよう、学校の行事計画を工夫させるとともに、学校と地域の関係諸機関が連携し、児童生徒の健全育成に取り組みます。

施策 人権を尊重した教育の推進

現状と課題

規範意識の欠如や人間関係の希薄化、モラルの低下、家庭・地域の教育力の低下などに伴い、様々な偏見や差別、虐待、ドメスティックバイオレンス（ＤＶ）など、人権に関する問題が発生しています。子供一人一人が人権に関する理解を深め、豊かな体験活動をとおして、人権感覚を身に付けることが大切です。また、児童虐待の早期発見・早期対応には、学校と関係機関との連携強化を図ることが重要です。

施策の方向性

- 人権教育を推進するための体制を充実させるとともに、人権感覚の育成を図るために指導内容・指導方法を改善します。
- 関係機関と連携しながら、児童虐待の早期発見・早期対応に努めます。
- 男女共同参画の視点に立った教育を学校の教育活動をとおして推進します。

主な取組

○人権教育推進体制の充実

- ◆児童・生徒や地域の実態に即した人権教育の全体計画や年間指導計画を充実させ、計画に則った実践を着実に積み重ねます。
- ◆関係機関と連携し、神川町の人権教育を推進します。
- ◆神川町人権教育推進委員会を活用し、「オール神川」体制で人権教育を推進します。

○人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善

- ◆豊かな心や人権感覚を育むために、様々な体験活動を取り入れた「人権感覚育成プログラム」の活用を推進します。
- ◆正しい判断力や心構えを身に付ける情報モラル教育を充実させます。
- ◆幼稚園・小中学校において順番に２年間の人権教育研究を委嘱し、人権教育を推進するとともに、教職員の資質向上に努めます。

○児童虐待から子供を守る学校づくりの推進

- ◆学校の教職員対象の児童虐待対応の研修を充実させ、早期発見に努めるほか、家庭や地域の関係機関と連携を深め、児童虐待防止教育を推進し、早期対応を図ります。
- ◆配偶者へのＤＶと、それに伴う児童虐待の早期発見及び早期対応に努めます。

○男女共同参画の視点に立った教育の充実

- ◆埼玉県男女平等教育指導資料などを活用して指導内容・指導方法の工夫・改善を図り、学校における男女共同参画の視点に立った教育を推進します。
- ◆中学生における「デートＤＶ」の未然防止や早期発見などに努めます。

施策 教職員の資質・能力の向上

現状と課題

少子高齢化やグローバル化による国際競争が激化する中、従来の学校教育を改革する必要が求められています。また、教員の大量退職・新採用教員の大量採用の時期を迎え、学校の教育力の維持・向上が喫緊の課題です。このような状況をふまえ、個々の教職員が研修を深め専門性を高めることと、町内の情報を共有し、学校間を越えた「オール神川」体制研修会で力量を高めることが重要です。さらに、地域の教育力を取り入れた教育や関係機関との連携、施設設備の改善により、教職員の業務の負担を軽減し、子供と向き合う環境づくりを推進する必要があります。

施策の方向性

- 教職員の研修を支援し、「オール神川」体制で学びの系統性を考慮した研修を推進します。
- 人事評価制度を活用し、教職員の人事管理や資質・能力の向上に取り組みます。
- ＩＣＴ等教育環境を整備し、教職員の負担軽減に努め、子供と向き合う環境づくりを推進します。

主な取組

○優れた教職員の確保

- ◆県教育局と連携し、年齢層のバランスや学校の実態に合った教職員の人事異動を計画的に実施します。
- ◆他市町との情報交換を密に行うとともに、学校訪問を計画的に実施し、人事管理に努めます。

○小規模に対応した町費職員の配置

- ◆定数管理を正確に行うとともに、複式学級がある学校へ町費臨時職員を配置します。
- ◆町費臨時職員の人事評価を行い、優秀な職員の確保に努めます。

○「オール神川」体制に基づく教職員研修の充実

- ◆子供たちに「生きぬく力」を育むために、校内授業研究会や学校研究を指導・支援し、指導力向上に取り組みます。また、研修に教職員が自由に参加できるシステムを構築し、教職員の力量の向上に努めます。
- ◆教育講演会や夏季研修会、その他の町教委主催の研修会を実施し、教職員の資質向上に努めます。
- ◆町内の教諭全員が、毎年授業研究会を実施します。校長の依頼があれば指導者を招聘し、または、町教委による指導・助言を行います。
- ◆校長と相談し、必要があると認めるときは、県の指導主事を指導者として招聘します。

○指導力が不足している教職員への対応

- ◆各学校と連絡を密に取り、教職員の指導状況の把握に努め、指導力が不足している教職員への早期対応を図ります。
- ◆指導力に課題がある教職員に対しては、県教育局と連携を図り、迅速且つ適切な対応を図ります。
- ◆体罰など、指導力不足から起こる教職員事故について、未然防止を強化します。

○人事評価制度の活用

- ◆教職員一人一人の資質・能力を高め、学校全体の教育力を高めるために人事評価制度を活用した取り組みを推進します。
- ◆教職員の能力や実績・意欲を把握し、適材適所に配置するなど人事管理に努めます。

○子供と向き合う環境づくり

- ◆教職員ＩＣＴの活用など、業務の効率化を図り、学校の負担を軽減し、子供と向き合う時間を確保します。
- ◆土曜日授業の実施や、各学校の特性に応じた柔軟な週日課の割り振りを推進し、子供の指導に関わる時間を確保します。
- ◆県教育局と連携し、加配教員の配置を積極的に行うとともに、実態に応じて町費臨時職員を配置し、子供の指導に関わる時間を確保します。
- ◆教職員が一人で問題を抱えないために、学校がチームで対応する体制を構築するとともに、専門機関との連携を深め、早期に適切な対応を図ることができるよう努めます。

○教職員の心身の健康の保持・増進

- ◆各学校における衛生推進者や養護教諭、管理職による教職員のメンタルヘルスケアを充実させ、教職員の健康の保持・増進に努めます。
- ◆毎月２１日を「ふれあいデー」とし、教職員の定時の退勤を推進する他、学校の実態に応じた定時退勤日や部活休止期間を設定し、教職員がメリハリのある勤務ができる取組の指導・支援に努めます。
- ◆風通しのよい職場環境づくりを推進し、教職員の孤立を防ぐとともに、健康疾患に対する予兆を見逃さず、早期対応を図るよう各学校への指導・支援に努めます。

【神川幼稚園 ふれあい芋掘り大会】

施策 子供たちの安心・安全の確保

現状と課題

児童生徒が、登下校や学校における事故、事件、災害の被害者にならないように、学校は安全の確保に努めるとともに、様々な場面を想定して、児童生徒に危機対応能力の基礎を培うことや、教職員の危機管理能力を向上させることが求められています。また、地域における児童生徒の安全確保については、学校と家庭、地域及び関係機関が連携し、地域全体で子供たちを守る体制を強化する必要があります。

施策の方向性

- ・子供たちに危機管理能力の基礎を身に付けさせるために、実践的な避難訓練等を実施します。
- ・学校における危機管理体制の整備・充実と教職員の危機管理能力の向上に努めます。
- ・児童・生徒の防犯や交通安全について、地域や関係機関と連携し、地域ぐるみの学校安全体制を整備します。

主な取組

○安全教育の推進

- ◆登下校時や学校において、子供たちの安心・安全を確保するため、幼稚園、小・中学校で学校安全に関する計画を作成します。
- ◆東日本大震災の教訓を活かした防災計画を作成し、子供たちに危機対応能力の基礎を身に付けさせるため、緊急地震速報を活用した実践的な避難訓練などを実施します。
- ◆子供たちの交通安全意識を高めるため、全ての学校で交通安全教室を実施します。

○学校の危機管理体制の整備・充実

- ◆幼稚園、各小・中学校において、危機管理マニュアルを作成するなど危機管理体制を整備・充実するよう、学校訪問で随時確認と指導を行います。
- ◆心肺蘇生法研修などの教職員・PTA研修を支援します。

○防災体制の整備・充実

- ◆自然災害などに備えた対応マニュアルを作成し、保護者や地域へ周知します。
- ◆避難訓練や引き渡し訓練などとの関連を図り、実効性のあるマニュアルにします。

○家庭・地域と連携した防犯・交通安全教室の推進

- ◆児童・生徒の防犯・交通安全教育を進めるとともに、家庭への普及やスクールガードリーダー、下校ボランティアの充実など、地域ぐるみの学校安全体制の整備を進めます。
- ◆神川町立学校PTAによる町内防犯パトロールを支援します。

- ◆神川町教育委員会による登下校の交通安全パトロールを、学期はじめに実施することと併せて、防犯パトロールを必要に応じて実施します。
 - ◆学校応援団や行政区、町の防災環境課と連携・協力し、交通安全活動を推進します。
 - ◆年度初めに、幼稚園と各小学校において、交通指導員と協力して交通安全教室を実施し、交通安全に対する啓発を行います。
- 関係諸機関との連携**
- ◆児玉警察や地域の駐在所と連絡を密に取り、防犯教育の充実や早期対応を図ります。

【神川幼稚園 交通安全教室】

施策 学習環境の整備・充実

現状と課題

児童・生徒が学んでいる校舎や遊具、体育館などは、老朽化が進んでおり、耐震化や安全で快適な学習環境づくりを計画的に進めているところです。また、教材・備品については、学習指導要領に沿って、必要な教材の補填・拡充をし、学校現場の声を聴きながら、計画的に整備する必要があります。それとともに、読書資料の整備やＩＣＴ環境の整備等、時代の変化に対応する教育を推進するために環境整備をしています。

施策の方向性

- ・計画的な施設整備により、安全で快適な学校環境づくりを進めます。
- ・学校の図書資料の充実や、学校の情報化の推進、教材・備品の整備を推進します。

主な取組

○学校施設の整備推進

- ◆安全で快適な学習環境を確保するために、計画的な施設修繕や大規模改修を進めています。
- ◆神川中学校の特別教室棟の改修と運動場整備、青柳小学校の運動場整備、青柳小・渡瀬小・神泉小の遊具の改修、全小学校の教室と特別教室へのエアコン設置などが終了し、安全な維持管理に努めます。
- ◆神川町シルバー人材センターと提携し、幼稚園と小・中学校に毎月人材を派遣して、校舎内外の環境整備を計画的に進めています。

○学校図書館の整備・充実

- ◆学校図書館図書標準の達成に向け、「神川町子ども読書活動推進計画」に基づいた学校図書館の資料の充実及び更新を図り、児童・生徒の自主的な学習活動を支援します。
- ◆神川中学校のオープンスペースの「図書のにわ」を活用し、生徒たちの自主的・自発的な学習を支援します。

○学校教材・備品の計画的な整備・充実

- ◆学習指導要領に沿って、授業等で使用する教育教材の充実を図ります。
- ◆ＡＥＤや消火器、机や椅子などの適正な管理を行っていきます。

○ＩＣＴ環境の整備

- ◆新学習指導要領の実施を見据え、児童・生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に効果的に活用できる環境を整備します。
- ◆小・中学校教職員用コンピュータや校務支援システムを活用した事務の情報化や効率化を推進します。
- ◆タブレットやデジタル教科書などのＩＣＴ機器の導入については、学校のニーズに応じて計画的に環境を整備します。

施策 家庭教育支援体制の充実

現状と課題

核家族化や労働形態の多様化に伴い、家庭環境が大きく変化しています。それに伴い、家庭の教育力が低下し、児童虐待や養育放棄、過保護、過干渉、放任などの養育上の問題が多発しています。子供の養育に家庭環境が与える影響は大きく、親が家庭における教育の大切さを認識し、子供たちに基本的な生活習慣や学習習慣、道徳心を身に付けさせるために、学習できる機会を提供することが重要になっています。

施策の方向性

- ・家庭教育の大切さや、子供たちが基本的な生活習慣を身に付けるための啓発活動を推進します。
- ・親としての支援や家庭での教育力を付けるための学習を推進します。

主な取組

○家庭教育学級の充実

- ◆中央公民館等において、家庭教育学級を実施し、家庭における教育力の向上や親同士の交流の推進を図ります。
- ◆幼稚園や各学校における家庭教育学級を支援します。
- ◆神川町PTA連合会や各学校のPTA活動を支援します。
- ◆各地域での子供会を運営する保護者を支援します。

○「ふれあいの日・ノーメディアデー」の実施

- ◆毎月20日の「ふれあいの日・ノーメディアデー」は、テレビやゲームの時間を減らし、親子で会話や運動をしたり、読書や読み聞かせをしたりして、積極的に親子でふれあう時間を確保することを推進します。
- ◆全国学力・学習状況調査の結果から、神川町の児童・生徒のテレビやゲームの視聴時間が長い傾向が続いています。そこで教育委員会では、毎月20日は「ふれあいの日・ノーメディアデー」として、メディアに触れる時間を自主的に制限することを推奨します。

○子育ての目安「3つのめばえ」の活用の推進

- ◆幼稚園の入園説明会や入園式、保育参観等で保護者へリーフレットを配布し、保護者に子育ての留意点等を説明し、啓発を図ります。
- ◆小学校の入学説明会等で保護者へリーフレットを配布し、保護者に入学までの子育ての留意点等を説明し、啓発を図ります。

○子育ての支援

- ◆神川幼稚園において、始業前と園児が登園後の1日2回「預かり保育」を実施し、家庭教育を支援します。
- ◆18歳までの兄弟から数えて第3子以降の給食費を無料にします。
- ◆神川町保健センターの保健師や理学療法士、町民福祉課と連携し、保護者の

子育てに関する相談を積極的に受け、全力でサポートします。

◆奨学金制度を推進し、進学への支援をします。

○二つの約束「あいさつとくつそろえ」の推進

◆神川町全体で「あいさつとくつそろえ」を推進します。

◆各学校の学校評価の項目に取り入れ、児童・生徒への指導と保護者への啓発を図ります。

○「なっちゃんと神じいとの約束」の推進

◆幼児対象に「なっちゃんとの5つのやくそく」、小学生対象に「なっちゃんとの10の約束」、中学生対象に「神じいとの10の約束」を作成し、子供たちが、社会的に自立する力の育成を図ります。

○「神じいの小言十訓（保護者向け）」の推進

◆幼稚園児の保護者対象に「神じいの小言五訓」小・中学生の保護者対象に「神じいの小言十訓」を配布し、子育ての指針として啓発を図ります。

神じいの小言五訓 (未就学児の保護者対象)

- 1 早寝早起きをさせるのじゃ
- 2 はし 箸を正しく持って食べさせるのじゃ
- 3 本を読んで聴かせるのじゃ
- 4 「いってきます。ただいま。」を
しっかり言わせるのじゃ
- 5 「ごめんなさい。ありがとう。」
を言えるように育てるのじゃ



神じいの小言十訓 (小中学生の保護者対象)

- 1 子供には早寝早起きの習慣をつ
けさせるのじゃ
- 2 子供には三食しっかり食べさせ
るのじゃ
- 3 あいさつのできる子に育てるの
じゃ
- 4 善悪のけじめがつけられる子に
育てるのじゃ
- 5 素直・反省・謙虚・奉仕・感謝の
心を持った子に育てるのじゃ
- 6 子供には家の手伝いをさせるの
じゃ
- 7 登校前に排便をさせるのじゃ
- 8 交通ルールを守って登下校させ
るのじゃ
- 9 宿題・予習復習・読書ができる子
に育てるのじゃ
- 10 子供の後ろ盾になってやるの
じゃ

施策 地域の教育力の向上

現状と課題

地域コミュニティの多様化や弱体化、連帯意識の希薄化などにより、地域の教育力の低下が指摘されています。少子高齢化や家庭環境の複雑化などに対応し、地域の宝である子供たちを健全に育てるには、学校と地域が連携を深め、地域ぐるみで子供を見守り、育てることが益々重要になっています。

施策の方向性

- ・地域住民の学校への積極的な参加を促進します。
- ・地域の行事や活動へ積極的に子供たちの参加を促進します。

主な取組

○学校応援団の活動の充実

- ◆学校応援団の活動を充実させ、登下校の安全確保や学習のための環境整備を図り、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進します。
- ◆学校と学校応援団との連絡会を支援し、よりよい連携が図れるようにします。
- ◆地域団体との連携を支援します。

○地域の団体や企業との連携

- ◆大学やNPO、青年会議所等が連携して実施する「子ども大学」への参加を推進します。
- ◆子供会や少年団活動を支援します。
- ◆「認知症サポーター」事業への参加を推進します。
- ◆青年会議所主催のイベントへの参加を促進します。
- ◆青少年育成委員会や社会体験チャレンジ事業推進委員会と連携し、地域の青少年健全育成に係る活動を支援します。

【青柳小学校 認知症サポーター研修】

施策 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進

現状と課題

家庭・地域の教育力の低下が指摘されています。教育に関する町民の関心と理解を一層深め、学校と家庭・地域の住民や企業・NPOなどが一体となって地域の子供たちの教育に取り組む必要があります。

施策の方向性

- ・彩の国教育の日や土曜日授業における取り組みを推進し、社会全体で教育に取り組む気運を高めます。
- ・保護者や教職員が連携して進めるPTA活動を支援します。
- ・青少年の健全育成の取組や青少年団体などの活動を支援します。

主な取組

○土曜日半日授業による学校公開の推進

- ◆町内の小・中学校で年5回土曜日半日授業を実施し、半日全てを学校公開日に位置づけ、保護者や地域の方々に学校を公開し、学校教育の理解を広め、学校への評価等を活用して、よりよい学校経営ができるよう努めます。
- ◆学校行事を計画的に実施するとともに、小学4年生とその保護者を一同に集めて「夢と希望を語る会 2分の1成人式」を実施します。

○「彩の国教育の日」の推進

- ◆11月1日の「彩の国教育の日」及び11月1日～7日までの「彩の国教育週間」における学校公開をとおして、町民への教育に関する理解を深め、関心を高めます。

○PTA、子供会活動への支援

- ◆幼稚園、小・中学校のPTA等が実施する子供たちの育成に関する研修会や子供会が主催する行事等を支援します。

○青少年健全育成活動の促進

- ◆神川町青少年育成委員会や各学校の生徒指導主任と連携し、青少年健全育成や非行防止などの取り組みを促進します。

○町内各団体との連携

- ◆「認知症サポーター」事業への参加を推進します。
- ◆神川町へ転入した教職員を対象に、町内の視察研修を実施します。

○青少年を有害環境から守るための取り組みの推進

- ◆メディア上の有害情報など、社会の有害環境から子供たちを守るために、ネットアドバイザーを活用して児童・生徒への指導と保護者への啓発を推進します。

○学校運営協議会の推進

- ◆学校運営協議会の活動を推進し、学校・家庭・地域が一体となって、子供達の健やかな育成を図ります。

施策 学び合いとともに支える社会をめざす生涯学習の推進

現状と課題

町民一人一人が生涯にわたってあらゆる機会にあらゆる場において、主体的・自発的に学習することができ、その成果を適切に活かすことができる社会の実現が望めます。「小さくても輝けるまち」をキャッチフレーズとした神川町の活性化と持続的発展を可能とするために、個人や団体、行政がそれぞれ自立・協働という関係を築く必要があります。

施策の方向性

- ・新たな学びの機会をつくり、町民のニーズに応じた学習情報を提供し町民の学びを支えます。
- ・地域の学び合いを支援します。
- ・学んだ成果の活用を支えます。

主な取組

○学び合いを支える体制づくり

- ◆大学やNPOが連携して実施する「子ども大学」への参加を推進します。
- ◆学び直しができる様々な学習の機会を「講座」として開設します。
- ◆長期休業中に、子供たちを対象にした「読書感想文教室」や「ボランティア教室」「作品作り教室」などを実施し、子供たちのニーズに応じた学びの場をつくります。

○学び合いを支える人づくり

- ◆指導者の育成や地域貢献できる人材の発掘、ともに学び合う仲間づくりなど学び合いを支えます。

○学びの成果の活用を支える仕組みづくり

- ◆学んだ成果を発表する会など、学習者の活躍の場が広がるように、学習の成果が見える機会づくりを支援します。

○公民館図書室における読書活動の支援

- ◆公民館図書室の事業「読書ピクニック」を支援し、町内の小・中学生が進んで読書の楽しさが味わえる環境づくりを推進します。
- ◆県立図書館や他市町の図書館のサービスを受けられるよう仲介の場として、公民館図書室を支援します。

施策 文化芸術の振興と伝統文化の継承

現状と課題

文化芸術は、その土地の住民や自分たちの先祖が心のよりどころとしたり、大切に継承したりするなど、歴史の重みや人々の心に安らぎや生きる喜びをもたらしてくれます。また、魅力ある町づくりを推進する力にもなります。これからも、地域の伝統文化を継承していくために、学校や地域で、子供たちの文化芸術に触れる機会を充実させ、豊かな心や感性、創造性を育む教育を推進する必要があります。

施策の方向性

- ・ 町民の文化芸術活動への参加や促進、発表の場の提供に取り組みます。
- ・ 子供たちの文化芸術活動の充実に取り組みます。
- ・ 町の貴重な財産である文化財を保存・活用し、後世に伝えます。

主な取組

○文化芸術活動の充実

- ◆ 神川町民文化祭やミニコンサートなどの開催をとおして、町民の文化芸術活動の発表の場を提供し、文化芸術に親しむ人々の和を広げます。
- ◆ 文化芸術団体を支援し、文化芸術活動の担い手の育成に取り組みます。

○子供の文化芸術活動の充実

- ◆ 幼稚園や小・中学校において、子供たちが文化芸術を鑑賞し、創造的な活動を行う機会を支援します。
- ◆ 神川町民文化祭に、児童・生徒の作品を展示したり、町内の保育園・幼稚園の園児が文化祭のステージで演技を発表したり、子供たちの発表の場を提供します。

○文化財の保護と活用

- ◆ 神川の歴史・伝統・文化への理解を深めるために、町の貴重な文化財の保存や活用を推進するとともに、情報の発信・提供に取り組みます。
- ◆ 神川の伝統文化に関する活動の継承・発展や、生活・生産活動に関連して形成された文化的景観の保存に取り組みます。
- ◆ 子供たちに「新神川郷土かるた」を使用して仲間づくりを進めるとともに、神川町の理解を深め、郷土愛を育みます。

【神川中学校秋桜祭（吹奏楽部）】

施策 生涯にわたるスポーツの振興

現状と課題

少子高齢化が進む神川町において、誰もが健康で生き生きとした暮らしを送ることができる健康長寿社会の構築は重要な課題です。スポーツには、心身の健康の保持・増進だけでなく、青少年の健全育成や地域社会の再生、社会・経済の活力の創造など、町民の生活において多面にわたる効果が期待されています。老若男女がスポーツをとおして親交を図ったり、適度な運動を楽しむ習慣を作ったりして、日頃のストレスを発散させ、メリハリのある、明るく楽しい生活環境づくりが必要です。

施策の方向性

- ・町民が一人一人のライフステージに応じ、それぞれの目的や方法でスポーツに親しむことができるような活動を推進します。
- ・関係スポーツ団体と連携し、大会や活動などの取り組みを支援します。
- ・身近で気軽にスポーツを楽しむ場や機会を提供し、町民がスポーツに親しめる社会づくりを進めます。

主な取組

○スポーツ・レクリエーション活動の推進

- ◆神川町スポーツ少年団など、地域のスポーツ団体の活動を支援します。
- ◆神川町民が年齢や性別、障害の有無などに関わらずスポーツに親しむことができるように様々な活動を推進します。

○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援

- ◆神川町の室内外の施設、各学校の体育館や武道館を積極的に地域の団体に開放し、活動の場を広げるよう支援します。

○神川町体育協会主催事業の支援

- ◆神川町町民体育祭への参加協力を支援し、幼稚園の演技発表や、小・中学生の競技参加を支援します。
- ◆神川町駅伝大会の運営や参加協力を支援します。

○豊かなスポーツライフを支える環境づくり

- ◆神川町におけるスポーツ施設の有効活用を推進し、身近にスポーツがある環境づくりに取り組みます。
- ◆神川町民のニーズに応じたスポーツインストラクターや指導者の人材発掘に努めます。

資料

用語の説明

行	用 語	説 明
あ	I C T	Information and Communication Technologyの略。情報(information)や通信(communication)に関する技術の総称。
	A L T	Assistant Language Teacherの略で、外国語指導助手の意味。学校で日本人教師の助手として外国語を教える外国人講師。
	A E D	Automated External Defibrillatorの略。心臓の状態を正常に戻す機能を持つ、自動体外式除細動器。
	N P O	Non Profit Organizationの略。営利を目的としないで社会貢献活動を行う団体の総称。
か	学習指導要領	学校教育で実施する教育課程の基準を示したもの。各教科の目標や学習内容について定めてある。
	学級がうまく機能しない状況	授業が成立しないなど、集団教育という学校の機能が成立しない学級のこと。
	学校運営協議会	学校と保護者や地域の方々とともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組み。
	学校応援団	学校における学習活動、安全確保、環境整備など、ボランティアとして協力・支援を行う保護者・地域住民による活動組織。
	学校図書館図書標準	学校図書館に置く、本の冊数や種類についての国の整備目標。
	キャリア教育	望ましい勤労観、職業観及び職業に関する知識や技術を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育。
	教育に関する 3 つの達成目標	埼玉県教育委員会が「学力」(＝知)、「規律ある態度」(＝徳)、「体力」(＝力)の 3 分野について、小中学校で確実に身に付けさせたい基礎的・基本的内容を具体的な目標として定めたもの。
	教研式NRT検査	相対評価法に基づく標準学力検査で、確かな学力について全国基準に照らして客観的に把握する。
	教研式CRT検査	絶対評価法に基づく標準学力検査で、年間の指導目標の実現状況を確認する。
	グローバル化	政治・経済、文化など、様々な側面において、従来の国家・地域の垣根を越え、地球規模で資本や情報のやりとりがおこなわれること。
	合計特殊出生率	人口統計上の指標で、一人の女性が一生に産む子供の平均数。
さ	合理的配慮	障害のある人が日常生活や社会生活を送る上で妨げとなる社会的障壁を取り除くために、状況に応じて行われる配慮。筆談や読み上げによる意志の疎通、車いすでの移動の手助け、学校・公共施設等のバリアフリー化など、過度の負担にならない範囲で提供されるべきものをいう。
	3 R 運動	リデュース(Reduce):廃棄物の発生抑制、リユース(Reuse):再使用、リサイクル(Recycle):再生利用の 3 つの英語の頭文字「R」をとった環境保護の運動。

	持続可能な社会	「環境」「経済」「人間社会」のバランスのとれた社会。有限な地球環境の中で、環境負荷を最小にとどめ、資源の環境を図りながら地球生態系を維持できる社会のこと。
	小1プロブレム	小学校に入学したばかりの1年生が「集団行動がとれない」「授業中に座ってられない」「話を聞かない」などの状態が数か月続く状態。
	情報セキュリティ	アンチウィルスソフトでコンピュータを守ったり、情報の持ち出しを制限・管理したりして、個人情報流出することを防ぐこと。
	情報モラル	情報社会において、正しい情報の処理の仕方や扱い方などについて、身に付けるべき考え方や態度。
	人権感覚育成プログラム	児童生徒の人権感覚を育むための体験活動や参加型体験型の活動を組み入れた人権教育の学習プログラム。
	スクールガードリーダー	学校の実情に応じて学校内外の巡回、登下校の安全確保や通学路の防犯パトロールなど、学校安全体制及び学校安全ボランティアの活動に対して指導を行う者のこと。
	スクールサポーター	中学校の要請に基づいて派遣され、生徒の非行や問題行動について、生徒指導の面から学校を支援する活動を行う警察職員。
	スクールソーシャルワーカー	子供たちが、学校や日常生活で直面する悩みや苦しみについて、家族、友人、学校、地域に働きかけ、福祉的なアプローチによって解決を支援する専門的な者のこと。
	摂食嚥下	食べ物を認識してから、口を経由して胃の中へ送り込む、一連の動作
た	男女共同参画	男女が社会の対等な構成員として自らの意志によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、ともに責任を担うこと。
	ティームティーチング	授業場面において、二人以上の教職員が連携・協力をとおして、一人一人の子どもや集団の指導の展開を図り、責任を持つ指導方法及び形態。
	中1ギャップ	中学校に入学して新しい生活を満喫する子供がいる一方、学校生活になじめず欠席しがちになったり不登校になったりする現象。
	特別支援教育コーディネーター	特別支援教育における、学校内の関係者や関係機関との連絡・調整、及び保護者に対する学校の窓口となる教員。
	ドメスティックバイオレンス	Domestic Violence。「DV」と呼ばれ、配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力のこと。
な	なめらかな接続	児童生徒の学校不適応防止と進路保障のために、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校が緊密に連携を図ること。
	ニート	Not in Employment、Education or Training (NEET) の略で、仕事についておらず、教育や職業訓練も受けていない状態、もしくは人をあらわす。
	ネットアドバイザー	保護者に対して、携帯電話の危険性や保護者の役割について啓発する子供安全見守り講座の講師。
は	フリーター	働く意志があり、アルバイトやパートとして就業しているか、就業しようとしている人をあらわす。
ま	3つのめばえ	埼玉県教育委員会では、幼児期における「生活」「他者との関係」「興味・関心」の3つの分野に着目し、子供たちに小学校入学前までに身に付けて欲しいこと。
や	ユニバーサルデザイン	国籍や年齢の違い、障害の有無などにかかわらず、誰でも平等、公平に施設や製品等を利用できるような規格や意匠のこと。



かみかわ こ せんげん
神川っ子宣言

- ^{ひと}人をいたわり ^{いのち}命 ^{たいせつ}あるものを大切にします
- ^いありがとう ごめんなさいを言います
- ^ひがまんをします 卑きょうなことはしません
- ^{かみかわ}神川を誇り ^{ほこ}父母や ^{ふ ぼ}目上の人 ^{めう え}を ^{ひと}敬 ^{うやま}います
- ^{しんしん}心身を鍛え ^{きた}夢 ^{ゆめ}に向かって ^むがんばります
- ^{やくそく}2つの約束 ^{くつ}（あいさつと靴そろえ） ^{まも}を守ります



平成19年9月